

グローバル文化シンボルとしての鯉のぼり教材の構成

Construction of Koinobori Instructional Materials As a Global Culture Symbol

中 村 哲 *

Abstract

The construction of Koinobori materials by powerpoint is explained in this paper. This instructional materials were developed on the Unit Plan "From Koinobori in Japan to Koinobori in the World". The content of this instructional materials is as follows.

1 History of Koinobori Activity, 2 Content of Koinobori Activity, 3 Significant of Koinobori Activity. The significant of this instructional materials can be pointed as follows.

Koinobori activity shape the lives of the people in such a way as to confront the reality of the social crisis and to increase the vitality of the people who working on reconstruction and creating community. Koinobori Activity is significant not only at local and traditional events in Japan but also as a form of cultural creation and cultural exchange in the world.

キーワード：教材・教具、鯉のぼり、グローバル文化

1 はじめに

本論文は、2014年度大学共同研究「グローバル世界における日本文化教育に関する研究」の一環であり、2013年度大学共同研究「外国における日本の『伝統と文化』に関する教育の調査研究」において開発された「日本の鯉のぼりから世界の鯉のぼりへの単元開発」の授業実践研究としての性格を有している。

本研究は、昨年度と同様に次のような教育動向と課題を踏まえている。周知のように戦後日本の教育方針を定めていた教育基本法が、これまでの教育の現状と21世紀の教育理念に基づいて2006年12月に改正され、「我が国の伝統と文化を基盤として国際社会を生きる日本人の育成」の教育目標が明記され、わが国の学校教育において「伝統と文化」に関する教育の具体化が切実な課題となっている。このような教育動向において、「伝統と文化」を基盤とする日本人の育成という自国のアイデンティティー形成が強化されると偏狭な自国中心主義の教育に陥る。しかし、自国のアイデンティティー形成なしに国際社会への関与を図る教育は難しい。このジレンマの

対応が、「伝統と文化」に関する教育の課題である。

この課題に対して、筆者は戦後の日本社会の変化と世界の国々の国際化を背景に日本における「伝統と文化」に関する教育研究に取り組んできている。しかし、これまでの研究は国内における実践研究に重点がおかれてきたので、国外における日本の「伝統と文化」に関する文化の理解と発信を図る実践研究も必要とされる。その為、昨年度の共同研究では、国外における日本の「伝統と文化」に関する教育の調査研究に着手することになった。そして、2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに着目した「鯉のぼり」を教材として、日本の伝統行事としての「鯉のぼり」活動をグローバル文化シンボルとして世界の鯉のぼり活動へと文化創造を図る単元を開発したのである。¹⁾

今年度の研究においては、昨年度の研究成果である単元「日本の鯉のぼりから世界の鯉のぼりへ」(6時間)の次の単元指導計画に基づいて国内外で活用するためにパワーポイントの教材として開発した。そして、フランスの高校と大学、さらにアメリカの大学にて日本語授業受講者を対象として授業実践を推進してきている。

* Tetsu NAKAMURA 教育学部教授

1) 拙稿「『日本の鯉のぼりから世界の鯉のぼりへ』の単元開発—グローバル文化シンボルとしての鯉のぼり活動を意図して—」、関西学院大学『教育学論究』第5号 2013年 pp.95-105

第1次 日本の伝統行事としての鯉のぼり
(2時間)

第1時 日本の鯉のぼりの由来

第2時 日本の鯉のぼりの歴史

第2次 日本の地域貢献としての鯉のぼり
(2時間)

第1時 地域社会の活性化としての鯉のぼり活動

第2時 地域社会の復興としての鯉のぼり活動

第3次 世界の国際交流としての鯉のぼり
(2時間)

第1時 グローバルアートとしての鯉のぼり活動

第2時 グローバル文化シンボルとしての鯉のぼり活動

本小論では、単元「日本の鯉のぼりから世界の鯉のぼりへ」のパワーポイント教材の構成を紹介する。この単元「日本の鯉のぼりから世界の鯉のぼりへ」のパワーポイント教材は、32ページの構成になっている。各ページはテキストと写真等の画像によって作成され、テキストとしては日本語と英語を用いている。提示の場合にはアニメーション機能を使用している。そして、最初のページでは単元名「日本の鯉のぼりから世界の鯉のぼりへ」(Koinobori Activity as a Global Symbol from Koinobori in Japan to Koinobori in the World) と次の3内容事項が明示されている。

- 1 「鯉のぼり」活動の経緯
(1 History of Koinobori Activity)
- 2 「鯉のぼり」活動の内容
(2 Content of Koinobori Activity)
- 3 「鯉のぼり」活動の意義
(3 Significant of Koinobori Activity)

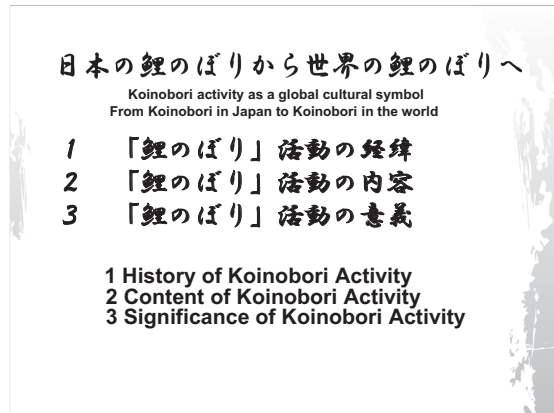
これらの3内容を踏まえて各ページを紹介する。

2 「鯉のぼり」活動の経緯のページ構成

「鯉のぼり」活動の経緯に関するページは、タイ

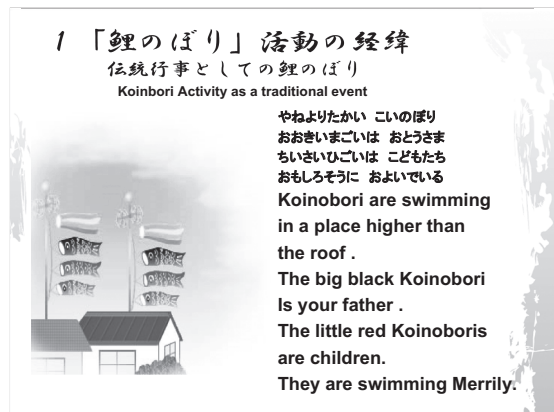
トルページを含めて次の8ページによって構成されている。

No. 1



タイトルページに続く2ページは、日本の伝統行事としてなされている5月5日の鯉のぼりの様子を象徴する童謡の「こいのぼり」の歌詞と画像によって構成されている。²⁾

No. 2



このページは、「鯉のぼり」についての興味を喚起し、次ページへの学習の動機づけを意図している。

3ページから6ページまでは「鯉のぼり」行事に関連する歴史を奈良・平安時代から現代までの鯉のぼりに関連する出来事が示されている。³⁾

2) こいのぼり画像については、次のイラスト無料サイトを利用。http://kaze-sora.com/

3) 鯉のぼりの歴史については次の文献およびホームページを参考にした。

所功『日本の祝祭日』PHP 研究所 1986年3月

http://ja.wikipedia.org/wiki/フリー百科事典『ウィキペディア』

http://www.j-pca.net/locality/history/kazo/index2.html こいのぼりの歴史

http://koinobori.prefer.jp/yurai.html 人形のmono ギフト 鯉のぼりの由来

http://ehehe8625.blog123.fc2.com/blog-entry-69.html えへへの知恵袋

『モースの見た日本』小学館 1988年5月

No. 3

奈良・平安時代
端午の節句 (5月5日) 災い (邪気) と
おうち行事 (菖蒲やよもぎなどの植物)

鎌倉時代
菖蒲と尚武 男子に兜や太刀を贈る
武家の幟

江戸時代
武士たちは、世継ぎの子どもの重要な
行事武者のぼり

Nara and Heian Period
Boys' Day (May 5) Event with the exception of the evil
Eliminate the evil (Plants such as mugwort and iris)

Kamakura Period
Sword and helmet are given to the boy of samurai as
an indication of the adult male
The Banners of samurai were built up.

Edo Period
Samurai is important for children of heir
Musha climbing event



武家の幟

3 ページでは、「鯉のぼり」が掲揚されてきたのは江戸時代の中期ごろになってからであるが、「鯉のぼり」が奈良時代からなされている「端午の節句」に起源があることを確認する。そして、次の鯉のぼり関連内容の理解が意図されている。奈良・平安時代では、「端午の節句」に菖蒲やよもぎなどの植物によって邪気を祓うことによって無病息災を祈る宮廷行事が行われた。例えば、軒に菖蒲やよもぎを挿したり、冠に菖蒲を飾ったり、菖蒲の葉で薬玉を作って柱に下げたりしたのである。

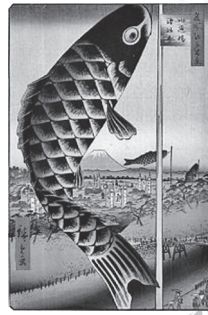
鎌倉時代では、菖蒲を尚武と解し、特に武家では男児の立身出世と武運長久を願い、兜や太刀を贈るようになった。さらに、室町時代では丸太や棒の先に招代 (おきしろ) などの神様を呼び寄せる目印を付けた幟を立てるようになった。また、民間においては菖蒲湯、菖蒲酒、菖蒲枕などの風習が盛んになされた。江戸時代には、將軍家を含めて武士たちが世継ぎの子どもの重要な行事として武者のぼりや作り物の槍、薙刀、兜などを立てて盛大な行事をおこなった。さらに、民間においても男子誕生を祝う作り兜や武者絵などの幟を立てたりした。

4 ページでは、歌川広重「水道橋駿河台」の鯉のぼり風景の浮世絵を画像として掲載している。この風景のように江戸時代中期において武士の幟に対して商人らが吹流しを掲揚するようになり、吹流しに鯉の滝登りなど絵が描かれた。そして、現在の鯉のぼりのように変容してきたことが起源であることの理解が意図されている。

No. 4

江戸時代中期
武士の幟に商人らも
吹流しと掲揚
鯉の滝登りなど絵が描かれ、
鯉のぼりに発展

Mid-Edo Period
Merchants hoisted streamers against
the banners of samurai.
Picture and waterfalls climbing carp are
drawn on the streamers



歌川広重「名所江戸百景」水道橋駿河台

5 ページでは、明治10年に「お雇い外国人」として来日したエドワード・S・モース (1838-1925) が収集した当時の日本人の生活に関するコレクションにある鯉のぼりのある通りの写真を利用している。明治時代には長屋の多くの家が真鯉や緋鯉の鯉のぼりを掲揚しているように日本の伝統行事として定着していたことの理解が意図されている。


No. 5

明治時代 緋鯉などの色

◆ Meiji Era
The red Koinobori was created.
Many people of the common people
had hoisted the Koinobori.

昭和時代 (戦後、東京オリンピック)
青、緑、黄などの鯉のぼりが作成
された

Showa era (After the war, Tokyo
Olympics)
The blue, green, and yellow
koinobori began to be created.



昭和時代においては、戦後の日本の発展を期して開催された東京オリンピックにおいて黒・赤・青・黄・緑の5色の鯉のぼりが作られたことから昭和30年代から昭和40年代においても日本の伝統行事として継承されてきたことの理解が図られている。

6 ページでは、地域の建物、公園、河、谷などに数多くの鯉のぼりが掲揚されている写真によって構成され、最近では個々の家の伝統行事としての鯉のぼり活動が地域の人々の連帯意識の形成や地域観光の企画として行われていることの理解が図られている。

その典型活動として鯉のぼり生産量が全国一位である埼玉県加須市では全長約100メートルのジャン

ボこいのぼりが、昭和63年から毎年5月3日に掲揚されている様子がクローズアップされている。⁴⁾

No. 6



そして、加須市では明治時代からの鯉のぼり生産地であり、その鯉のぼりを活用して、市民による町おこしがジャンボこいのぼりの開催に関連していること、さらに国内だけでなく世界でも市民平和を祈念して掲揚されていることの理解がなされている。

7ページでは、これまでの日本での伝統行事としての鯉のぼり活動とは、異質な2011年3月11日に発生した東日本大震災によって被害を被った宮城県南三陸町の様子の写真によって構成されている。

No. 7



そして、津波の被害で鉄骨のみの防災対策庁舎の正面に鯉のぼりが掲揚されている写真に焦点づけている。

その意味では、このページはこれまでの鯉のぼり活動とは異質なページになっているが、次の8ページから取り扱う「鯉のぼり活動の内容」への導入ページの役割を有している。

3 「鯉のぼり」活動の内容のページ構成

「鯉のぼり」活動の内容に関するページは、8ページから26ページまでの19ページの構成になっている。そして、8ページから14ページまでは東日本大震災による地域社会の復興に関する「鯉のぼり」活動内容と15ページから26ページまでは国際交流に関する「鯉のぼり」活動内容によって構成されている。

前半の「鯉のぼり」活動では、「これまで伝統行事として行われてきた鯉のぼり活動が、社会の危機状況に対してどのような意義があるのか」という社会的危機状況における鯉のぼり活動の意義の理解が意図されている。8ページでは、「天空に向けて舞い揚げよう鯉のぼり活動を開始」という文書記載のみになっている。

No. 8

2 鯉のぼり活動の内容

**「天空」に向けて舞い揚げよう
鯉のぼり活動を開始**

We will begin to raise the Koinobori
toward the sky.

なお、この活動の主旨については2011年3月11日に発生した東日本大震災に対して、和文化教育研究交流協会が呼び掛けた「天空に向けて舞い揚げよう『鯉のぼり』活動協力をお願い」の資料を提示する。そして、「天空に向けて舞い揚げよう『鯉のぼり』活動はどのような意図でなされ、どのように活動が展開されてきたのか」を学習問題として設定する。

9ページでは、2011年5月5日に実施された宮城県南三陸町での鯉のぼり活動の写真で構成されている。

4) <http://www.mapbinder.com/Map/Japan/Saitama/KazoShi/Koinobori.html> 加須市ジャンボこいのぼり

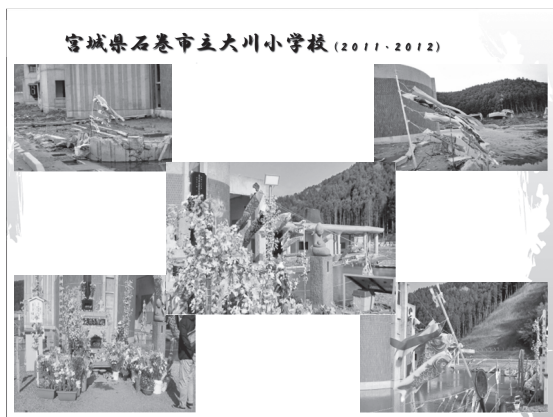
No. 9



これらは、南三陸町での仮庁舎と避難所の「ベイサイドアリーナ」にて佐藤仁町長にフランスと加東市からの「鯉のぼり」を贈呈し、アリーナの掲揚台にて避難者の方々と一緒に「鯉のぼり」を掲揚した様子の写真である。

10ページでは、5月6日にこの度の大震災においてもっとも悲惨な被害を被った大川小学校を訪問し、学校関係者としてこの悲劇の学校のことを肝に命じ、子どもたちと教職員のご冥福を祈るために、持参した「鯉のぼり」も掲揚した写真である。その時には多くの献花がなされ、「鯉のぼり」も掲揚されていたのである。

No. 10



11ページでは、「天空に向けて舞い揚げる鯉のぼり活動」に協力を得た国内の小学校と中学校、大学、海外の学校の中から活動写真を入手できた関西学院大学、東広島市立中央中学校、上海日本人学校、上海師範学校等の写真掲載になっている。

No. 11



12ページでは、上海市青浦瀚文小学での鯉のぼり活動に関する写真によって構成されている。中国から鯉のぼり活動の協力を得られた学校は、次の5校である。上海市曹光彪小学、上海市青浦瀚文小学、上海市梅隴中心小学、瀋陽市東北育才東関模範小学、北京市育英小学。これらの学校の中で筆者が6月1日に上海市青浦瀚文小学を訪問した。

No. 12



これらの写真は、次のような活動内容になっている。全生徒たち約800名が各学級にて「鯉のぼり」のペーパークラフトを制作し、校庭の掲示場所に展示した様子。また、事前に日本から送られたペラサイズ「鯉のぼり」も掲揚され、多くの子どもたちは興味関心を示した様子。そして、多くの児童から日本からの「鯉のぼり」に応援メッセージの記載の協力を得られた様子。さらに、折り紙による「鯉のぼり」づくりを紹介すると児童たちは言うまでもなく、教師の方々も熱心に参加し、その手法を習得していた様子。

13ページでは、ベトナムでの鯉のぼり活動の写真、14ページでは、ラオスでの「鯉のぼり」活動の

写真によって構成されている。

これらの写真については、東京都日本の伝統・文化理解推進モデル地域である東京都武蔵村山市の海外研修としてベトナムとラオスを訪問された第八小学校の牧一彦校長と第十小学校の榊尚信校長からの提供写真である。⁵⁾

No. 13



No. 14



両先生は「鯉のぼり」活動に賛同された持田浩志教育長から「復興鯉のぼり」活動も依頼され、ベトナムではチャビン省にある4校を訪問し、「鯉のぼり」の寄せ書き依頼と日本文化の紹介を行った。ラオスでは10校を訪問し、同様に「鯉のぼり」の寄せ書き依頼と日本文化の紹介を行った。さらに、ラオガム郡ドンニャイ中学校は、福島県飯館村の支援によって建設された学校である。これまでの日本の支援による学校建設もあり、これらの学校においては「鯉のぼり」の活動協力だけでなく、義援金も託されたとのことである。

15ページは、ラオスからの持ち帰って来られた

「鯉のぼり」を飯館村の児童たちに紹介している写真によって構成されている。

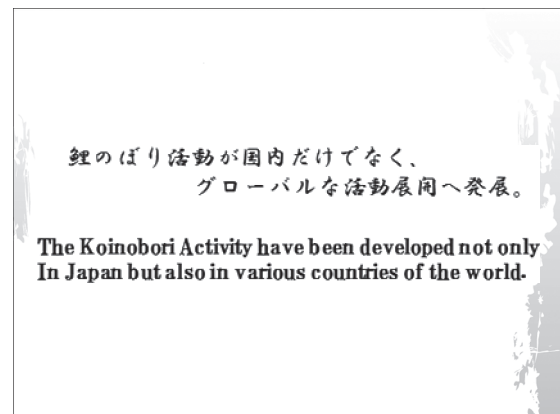
No. 15



持田教育長を含めた両校の校長3名が飯館村の草野小、飯樋小、白石小の3校が仮校舎としている川俣町立川俣中学校を訪問し、飯館村の子どもたちにベトナム・ラオスと両校からの激励メッセージと「鯉のぼり」を贈呈した。飯館村の子どもたちは、これらの「鯉のぼり」とメッセージカード等を見たり、読んだりして笑顔があふれたとのことである。

後半の「鯉のぼり」活動では、「日本の伝統行事としての鯉のぼり活動が世界の国々にける交流を多様に生み出していること」の理解が意図されている。

No. 16



16ページでは、グローバルな活動が展開されていることを明示されている。

17ページと18ページでは、グローバルな活動の魁としてフランス在住の服部祐子氏（パリ日仏文化センター「エスパスハットリ」館長）が「日本の子ども

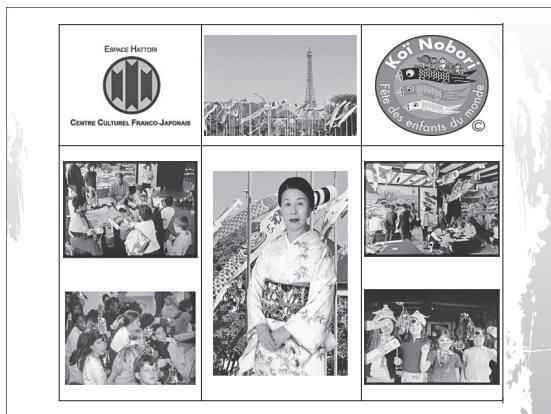
5) 牧一彦、榊尚信『海外派遣研修報告 世界を結ぶ復興を願う鯉のぼり 平成23年4月27日～平成27年5月5日』平成23年5月10日

もの日」から「世界の子どもの日」として世界の子ども達の健やかな成長と世界の平和を祈願され、2001年よりフランス国内にて実施されてきた「Koi Nobori-Fete des enfants du monde」の活動の写真によって構成されている。⁶⁾

No. 17



No. 18

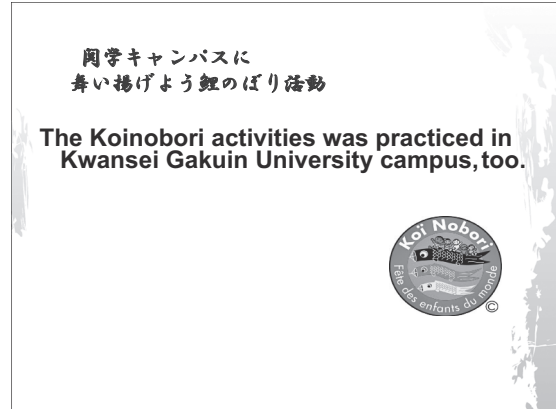


特に、フランスのバリの象徴であるエッフェル塔を背景に鯉のぼりが掲揚されている写真は、国際交流の役割を示す鯉のぼり活動の理解を推進するものとなっている。なお、服部氏はこの度の東日本大震災に際して、日本から送られてフランスの青空で泳いでいた「鯉のぼり」に応援メッセージを添えて、「未来の夢の社会」の建設に向けて日本の力を生みだすことを呼びかけ、救済支援活動も実施されている。この鯉のぼりが、9ページの南三陸町にて掲揚された鯉のぼりのひとつになっている。

19ページからは、グローバル人材育成を標榜している関西学院大学の活動として関学キャンパスにて

毎年5月5日の前後に実施している「関学キャンパスから舞い上げよう空の翼！鯉のぼり」活動の様子を紹介しているページになっている。

No. 19



20ページでは、この活動の案内パンフの写真になっている。このパンフに掲載されている作品としての「鯉のぼり」、福島大学芸術による地域創造研究所による「Koi 鯉アートのぼり」活動の協力を得て制作したものである。⁷⁾

No. 20



これらの鯉のぼりは、デンマーク、ポーランド、フランス、カナダ、ドイツ、イギリス、アメリカ、ペルー、メキシコ、フィンランド、バングラディッシュ、スイス、中国、台湾などの国々の子供たちの作品である。このような「鯉のぼり」作品を通して日本の「鯉のぼり」の活動が世界の子供たちとの連携でなされていることへの理解が意図されている。

21ページでは、関学の「鯉のぼり」活動の日程が示されている。

6) パリ日仏文化センターについては、次のサイトを参考にされたし。 <http://www.ccfj-paris.org>

7) 福島大学芸術による地域創造研究所による「震災における支援プロジェクト」については、次のサイトを参考にされたし。 <http://wa-art.com/koi/>

No. 21

- ◆ 25年5月5日 (日) 10:00-11:30
- ◆ 西宮上ヶ原キャンパス時計台前集合
- ◆ 10:00-10:15 (時計台前)
 - ・トランペット演奏
 - ・世界の鯉のぼりの紹介
- ◆ 10:15-11:00 (新月池付近)
 - 東北と世界へ飛ばたく鯉のぼりづくり—
 - ・鯉のぼりづくりのワークショップ
- ◆ 11:00-11:30 (時計台前)
 - 鯉のぼりをあげ、東北と世界へ飛ばたかせよう—
 - ・アカベラサークルによる合唱
 - ・応援団総務指導部エール

具体的な活動として、午前10時からのトランペット演奏と世界の鯉のぼりの紹介から始まり、鯉のぼりのワークショップにおいて鯉のぼりを作成し、その「鯉のぼり」を掲揚する企画になっている。22ページでは、関学の上ヶ原キャンパスの時計台前に掲揚されている鯉のぼりの写真になっている。

No. 22



23ページでは、トランペット演奏から「鯉のぼり」作成のワークショップ活動の様子である。

24ページではアカベラの合唱と応援団総務指導部の応援、海外の子供たちが作成した「鯉のぼり」の掲揚、参加者の写真などの内容になっている。

このような関学での「鯉のぼり」活動が実施される歴史背景として、25ページとして、1961年関西学院大学ペルー・アンデス探検隊がベースキャンプに

て「鯉のぼり」を掲揚している写真になっている。⁸⁾

No. 23



No. 24



No. 25

1961年関西学院大学ペルー・アンデス探検隊
学院創立70周年記念企画ワスカラン峰登頂



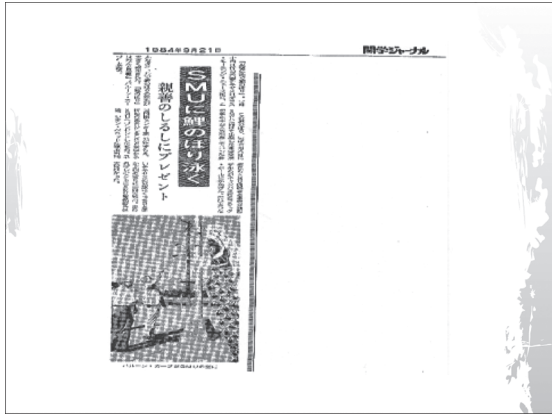
26ページでは、1980年から南メソジスト大学との

8) 写真は山岳部 OB 長井弘光氏から学院史編纂室へ2012年7月14日付けの書面で寄贈していただいたものである。また、聖歌隊 OB の多田謙一氏から遠征隊に選別として「鯉のぼり」にした理由を次のように記載された文書も同封されていた。

1. 日本の文化を紹介できるもの。
2. 軽く、嵩張らず、持ち運びに負担をかけないこと。
3. 鯉のぼりは、子どもの日、かつては端午の節句の飾りで、成長、勢い、力強さ、優しさ、家族愛、平和を願う象徴といえること。
4. ワスカラン峰登頂の際に、日の丸と一緒に靡かせてもらえたらいいな。

学生交流が開始されたことの記念として1984年に当時の国際交流センター室長の藤田充先生が南メソジスト大学にて「鯉のぼり」を掲揚した関学ジャーナルの記事（1984年9月21日）になっている。⁹⁾

No. 26



この活動内容については20ページ掲載の案内パンフに次のように記載されている。¹⁰⁾

関西学院大学においても「鯉のぼり」活動を取り組んできています。2011年3月11日の震災後、関西学院教育学部学生有志によって「応援鯉のぼり」を作成し、校舎間の通路に掲揚しました。西宮聖和キャンパスにおいて2012年1月7日～8日にて開催された和文化教育第8回全国大会（大会テーマ 地域社会の復興と創造をめざす和文化教育）にて「鯉のぼり」を掲揚し、学生有志による震災応援セレモニーを実施しました。この大会をきっかけに2012年4月下旬から5月上旬までの約1週間、教育学部1号館屋上に海外からの子どもたちと学部生有志による「応援鯉のぼり」を掲揚し、被災地域の復興と世界の子どもの幸福を祈念してきました。そして、関西学院大学の歴史を顧みますと1961年に学院創設70周年を記念して実施された「ペルー・アンデス探検」の際に、関西学院聖歌隊が饞別として「鯉のぼり」を探検隊に渡されたとのこと。その「鯉のぼり」は、ワスカラン登頂成功後ベースキャンプに掲揚され、チリのサンチャゴにある小学校に友好の印として寄贈されました。

1984年には当時の国際交流センター室長の藤田充先生が1980年から学生交流が開始された南メソジスト大学（Southern Methodist University）に両校の

親善のしるしとして「鯉のぼり」を持参され、SUM 大学にて掲揚されました。このような「鯉のぼり」活動を関西学院大学の教育理念も視野にいれ、グローバルな文化活動として推進するために、昨年度から西宮聖和キャンパスだけでなく、西宮上ヶ原キャンパスにおいても「鯉のぼり」活動を開催しています。今年度からは大学内だけでなく門戸厄神地域の方々とも連携を図ることになり、大学と地域とのローカルな文化活動としても発展することになりました。その意味では、ローカルな地域に根ざしてグローバルな世界へ文化シンボルとして「鯉のぼり」活動が飛躍していくことになりました。

このように後半のページでは、日本の伝統行事としての鯉のぼり活動が世界の国々との交流や世界の国々への発信を図る意義を有する理解がなされるように構成されている。

4 「鯉のぼり」活動の意義のページ構成

「鯉のぼり」活動の意義に関するページは、タイトルページを含めて次の6ページによって構成されている。

27ページでは、「鯉のぼり」活動の意義を次のようにまとめた文章になっている。

No. 27

3 活動の意義

社会的危機状況の現実に向かう生き方とこれからの地域社会の復興と創造に取組む人々の活力を生み出す。

This activity produces the way of life of the people to confront the reality of the social crisis and the vitality of the people who work on reconstruction and creation of community

国内における伝統行事や地域イベントとしての意義だけでなく、世界における文化交流と文化創造を生み出す。

This activity produces not only the significance of local events and traditional events in Japan but also cultural creation and cultural exchange in the world.

「社会的危機状況の現実に向かう生き方とこれからの地域社会の復興と創造に取組む人々の活力を生み出す。国内における伝統行事や地域社会イベントとしての意義だけでなく、世界における文化交流と文化創造を生み出す。」

このように日本の伝統行事としての「鯉のぼり」

9) 「SMUに鯉のぼり泳ぐ」関学ジャーナル 1984年9月21日

10) 「関学のキャンパスから舞い揚げよう空の翼！鯉のぼり」資料 <http://30.pro.tok2.com/~wabunka/sonota.html> 和文化教育学会

活動の意義を、社会的危機状況における文化力とグローバル世界における文化貢献の観点から指摘している。その意味では、「鯉のぼり」活動が日本の伝統文化に留まるだけでなくグローバル世界の文化として発信・交流を図るシンボルになることへの理解が図られている。

28ページから30ページまでは、世界の歴史的出来事における「鯉のぼり」の文化交流を裏付ける写真によって構成されている。28ページでは、1920年頃にフランスのサン・ヴァンサン・シュル・ジュールにあるクレマンソーの別荘に掲揚されていた「鯉のぼり」の写真となっている。約100年前にフランスの田舎町に日本の鯉のぼりが掲揚されていたこと自体だけでも驚きの事実である。¹¹⁾

No. 28



29ページでは、この「鯉のぼり」と関連する1919年に第1次世界大戦の終結策を審議したパリ講和会議の当時の会場となったフランス外務省の建物の写真になっている。¹²⁾

No. 29

パリ講和会議（1919）



フランス外務省。ケ・オルセーに面している
現在の外務・ヨーロッパ問題省
ジョジュール・クレマンソー首相
鯉のぼりの旗

その当時のフランス首相がジョルジュ・クレマンソーであり、日本の全権代表者が西園寺公望であった。クレマンソーと西園寺公望は、パリ大学において親友同士であった。西園寺公望は、クレマンソーが日本文化に強い関心をもって日本の焼き物、版画、香合などを収集していることを知っていたのである。そこで、在仏日本大使であった松井慶四郎氏が西園寺公望氏の意向を踏まえて、クレマンソーに鯉のぼりとひな人形を贈呈したのである。そして、クレマンソーが特に鯉のぼりを気に入り、サン・ヴァンサン・シュル・ジュールにある別荘にて掲揚した。¹³⁾

30ページは、クレマンソーに贈呈された鯉のぼりの現状写真である。当時の鯉のぼりは、存在していることを確かめられたのである。このように鯉のぼりが100年も前にフランスにて掲揚されていたのである。¹⁴⁾

No. 30



11) "CLEMENCEAU LE TIGER ET L'ASIE" Musee national des arts asiatiques-Guime, Paris 2014 p. 276, pp. 302-304

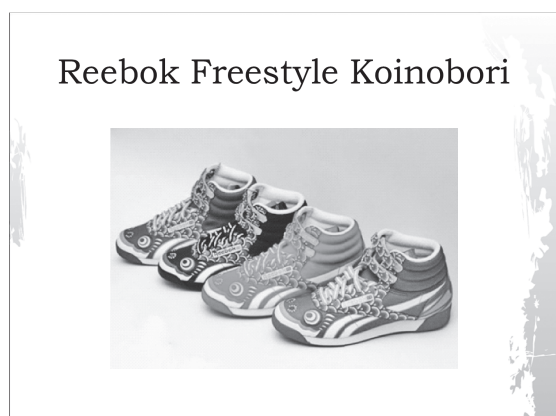
12) ウィキペディア 「パリ講和会議」を参照。

13) 松井慶四郎『松井慶四郎自叙伝』刊行社、昭和58年6月20日 pp. 107-108

14) クレマンソーの鯉のぼりの写真については、クレマンソー館の管理責任者 Jean-Loup Bauduin 氏から提供されたものである。

31ページではリーボック社が販売している「こいのぼり」を活用した靴の写真である。また、ナイキ社においても「こいのぼり」名の靴を販売している。その意味では過去の世界史的事実だけでなく、現在の生活においても世界のブランド品として「鯉のぼり」と関連する製品があることによって「鯉のぼり」が世界に流通しているとの理解が意図されている。¹⁵⁾

No. 31



さらに、32ページではフランスで生産されている鯉のぼり制作会社の広告写真になっている。日本にて生産されている「鯉のぼり」とはデザインも用途も異なるが、外国においても生産され、日本の鯉のぼり文化とは異なる新たな鯉のぼり文化の創造の理解がなされるように構成している。¹⁶⁾

No. 32



5 おわりに

本小論では、昨年度に日本の伝統行事としての「鯉のぼり」活動を教材として開発した単元「日本

の鯉のぼりから世界の鯉のぼりへ」の単元計画に基づいてパワーポイントによる教材を開発した。そして、その教材の構成について紹介している。

この開発教材は、「鯉のぼり」活動の意義で指摘しているように東日本大震災の社会的危機状況に対して、これまで我が国の伝統行事として子どもたちの健やかな成長を祈念して行われてきた「鯉のぼり」活動が、人々の絆を強め、地域社会の復興を図り、新たな地域文化の創造に奇与すると共に国際的な文化交流と文化創造を図る意義を再発見できる教材であると指摘できる。

さらに、この開発教材を活用して、これまでに次のフランスとアメリカの学校にて授業実践をしている。

2013年11月18日

パリ市内のリセ・シャンドラ・フォンテーヌ高等学校

2013年11月19日

リール第1大学社会経済学部

2014年3月28日

アメリカアイオワ州デモンにある

ドレイク大学外国語学部

2014年9月17日

リヨン第3大学日本語科

2014年9月18日

リヨン高等師範学校

今後、これらの学校においてこの開発教材による受講生の鯉のぼりに関する文化理解と開発教材の構成等の検討が必要とされる。さらに、このような教材活用によって外国の学生たちが日本文化への理解とグローバルな意義を把握する上で重要な研究成果として次のドレイク大学での学生たちの活動が指摘できる。学生たちはこの教材の授業を受講した後に、地域の小学生や高校生に日本の「鯉のぼり」を紹介する教材を開発し、その教材を活用した授業を实践する活動へ発展させたのである。このような学生たちの活動が生まれ出されたことは、開発教材の教育成果を示すものと評価できる。

15) Reebok Freestyle Koinobori のサイトを参照されたし。

16) Madame MO については次のサイトを参照されたし。 <http://www.madamemo.com/>